

図書館だより

埼玉県立図書館

26号



みずうみ

狭山湖は、人造湖である。最近で
きたばかりの人工の湖とちがって、
長い間周りの森林や丘陵と馴染み、
同化しているから、さながら自然の
湖といった感じがする。

昭和二年、人口が膨張する東京へ
給水するために、丘陵の東側を堰と
めて貯水池をつくる工事がはじまっ
た。湧き水などに苦しみながらも、
浸食谷を利用して、約七年の歳月を
使って昭和九年四月に完成した。

この時、旧勝楽寺村、縄竹村の全部
と、堀口村の大部分が、湖底に沈んだ。
一つの新しいものが出現するとき
には、当然のことながら、犠牲になる
部分がある。離村によって一人ひとりの
運命が変えられてしまうのは、已
むを得ないともいえるが、また哀れ
でもある。そういう「湖底の村」を扱
った小説は他にあるが、この狭山湖
をモデルにした創作はまだ知らない。
取水塔のつり橋に灯がともった。
茜に染まった雲が水面に写って流れ
る。浮く鴨の群が点のように影をつ
くる。湖の夕暮れである。(Q)

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5



▶合同研修風景

ざっと、こんなところで「俳句講座」の例会は、三年目を迎え、その他「日本史とこところ」や「詩吟講座」も喜ばれて継続講座となっているし——その他では、バラエティに富んだ各種の教養講座・優秀映画の鑑賞、社会福祉施設の見学、慰問や年一回、二泊三日程度の親睦旅行を行っているところだ」

A「なかなか、やるねえ」
B「いや、どうも。それでも会員の

数も漸増して五〇名近くとなり、毎回楽しみにして出席されているようだ」

A「なるほど。この処、世は行革時代とかで、福祉の面も段々窮屈になりそうではないか」
B「そうだね。人生八〇年代だそうだが、僕達熟年組も何もかも行政に頼る考えを変えて、できるだけ自主・自立することを考えるところへきてるようだね」

その意味では、頭のボケを予防して、コミュニケーションの幅を広げるのが「読書クラブ」も意義ありとすべきだろうか」
A「いや、全くだ。いよいよ健闘を祈るとしよう」
B「有難う。ではまた」

(熊谷図書館協議会副議長
むさしの読書クラブ会長)



比企丘陵を西に配する吉見町は遺跡「吉見の百穴」で知られ、県のほぼ中央に位置している。

町人待望の図書館は60年5月5日に開館した。明日を担う子供達に夢を与えるには、読書環境作りが大切という考えからこの日に開館を合わせたと言う。町の文化施設が集まる中心地の一角、外壁はレンガ風、屋根はドーム型の銅ぶきで二階建ての建物は田園地帯の中で一際映える。

貸出しを中心とした設計は入口付近に児童コーナー、中ほどにサービスカウンターを配し、その前にくつろげる新聞・雑誌コーナーと展示コーナー、そしてその奥が一般書コーナーとなっている。東、南、北の三面からの自然採光はとても明るい。カウンター手前でゆったりとした階段をのぼると視聴覚室、参考図書室、研修室がある。

広い町であり、図書館から遠い方のため貸出し制限を設けない、また公民館への配本など「町民の書齋」

吉見町立図書館

県内図書館めぐり

になるべく利用の拡大を図っている。

概要
○施設 鉄筋コンクリート造二階建て床面積 七二二㎡
一階 一般書コーナー、雑誌・新聞コーナー、展示コーナー、児童書コーナー、二階 視聴覚室、参考図書室、研修室

○所蔵資料 一般書一万四千冊、児童書九千冊、郷土資料二千冊、雑誌五十誌



▲吉見町立図書館

所在地 吉見町大字中新井四九七
TEL ○四九三(54) 一五二七

或る対話

むさしの読書クラブをめぐって

岡部三郎

A「やあ、しばらく」
B「やあ、やあ。いつも元気です」
A「お蔭でカラ元気だね。ときに君の読書クラブはいよいよ発展かね」
B「あ、八周年を迎えたよ」
A「そのこと。いつか詳しく聞きたいと思ってたんだがね……従来の読書クラブとは、少し違うようだね」
B「うん、そうだよ。まあ、僕らの読書クラブは、ひとくちで言えば地方版・ミニ老人大学とでもいうところかな」
A「そうすると、構成員はおとしよりかね」
B「そうなるね。会員は大体のころ六〇歳〜七〇歳程度だよ」
A「どんな処で、月に何回位の集りだね」
B「県立熊谷図書館に馴染みのある人達で始めたので、設立以来、同館の大変なご指導と後援とを頂いて会場などを提供して貰い、今年度から月二回——第二土曜と第四

土曜に開講しているよ」
A「もう少し運営状況などを話して呉れないか」
B「それなら、毎年一回会員の意見や感想などを発表する機関紙「ゆうゆう通信」の次号を編輯する資料を持っているので、それに載せる会則をお目につけよう」

第一条 この会は、むさしの読書クラブといふ。

第二条 この会は、埼玉県立熊谷図書館を利用して相互の啓蒙を図り親睦を深めると共に広く社会福祉の進展に寄与することを目的とします。

第三条 この会は、前条の目的を達成するため次の事業を行います。

一、教養講座の開講
二、輪読会、懇談会の開催
三、社会参加の諸事業
四、会誌の発行
五、関係機関、団体との連絡
六、その他目的達成に必要な事業

第四条 この会の目的に賛同し、入

会を届出た者を会員とします。会員は、所定の会費を納めるものとします。

第五条 この会に次の役員をおきます。

会長 一名
副会長 二名
幹事 若干名
監事 二名

この会に顧問をおくことができます。

第六条 役員は、会員の中から選出し、任期は二年とします。但し、再任は妨げません。

第七条 この会は、事務局を埼玉県立熊谷図書館内に置きます。

事務局職員は、会長が委嘱します。

第八条 この会の経費は、会費およびその他の収入をもってあてます。

第九条 この会の会計年度は、四月一日から翌年三月三十一日までとします。

第十条 この会は、毎年一回総会を開き、また必要あるときは、臨時総会を開くことができます。

第十一条 この会則の実施について必要なことは、会長が定めます。

第十二条 この会則の変更は、総会の決議によります。

	10:00~12:00	12:30~13:00	13:00~15:00	備考
10月12日(第2土)	「田山花袋をめぐって」 岡田史郎先生	懇談アワー	詩吟講座 渋谷漢月先生	
10月26日(第4土)	俳句講座 丸山一夫先生	同 上	「日本史とこところ」 (第4回)飯島武一先生	
11月9日(第2土)	※優秀映画鑑賞 「忍ぶ川」	同 上	俳句講座 丸山一夫先生	
11月26日(第4火)	詩吟講座 渋谷漢月先生	同 上	「TV時代物の嘘と本当」 稲垣史郎先生	稲垣先生は映画やTVの時代考証家として有名な方です。
12月14日(第2土)	俳句講座 丸山一夫先生	同 上	「日本史とこところ」 (第5回)飯島武一先生	12月(第4土)は歳末につき休講

A「ふん、かなりまとまっているね」
B「またここに、今年十月から十二月までの講義予定があるのでお目につけよう」

埼玉の文学 埼玉の小説家

▽ 3 ▽

三上 於菟吉

埼玉の生んだ大衆小説の代表的作家に三上於菟吉がいる。三上は明治二十四年二月四日、北葛飾郡桜井村（現・庄和町）に生まれる。医師の父純太郎、母まさの三男である。三十七年、桜井小学校卒業、県立柏壁中学校（現・春日部高校）に入学する。柏中時代、文学の才能豊かな色白の美少年で、「中学世界」「文章世界」その他の雑誌や小説を読みあさり、大町桂月や高山樗牛の理想主義の影響を受ける。その後、日本自然主義運動に心を震撼され、芸術的よりも虚無思想に憧憬する。理想主義を嘲笑した「吾は現実を立脚する青年なり」と題する小論文を「文章世界」に投稿、掲載されて学校当局を激怒させる。

月や相馬御風を敬慕していた三上は、早大英文科に入学する。同級に宇野浩二、竹田敏彦らがいる。すぐに今井白楊、三宮桐葉、宇野らと同人雑誌「シレーネ」を創刊する。しかし三上の「薙露歌」により発禁処分をうけ一号でつぶれる。

このころ近松秋江を通じて佐藤春夫との交遊が始まる。また神楽坂の芸奴となじみ、運出して雑司ヶ谷に隠れ棲むが、芸奴との逃亡が抱え主との間に悶着が生じ、父に発覚して女と別れ、実家に連れもどされて謹慎生活を余儀なくされる。三上は女との別れ方に非情をはじ自己嫌悪に陥り、下総の海で投身しようと霊岸島から上船する。その船中で人妻と過ちを犯し、免訴になって出獄した北原白秋と出会う。白秋も自殺行であったのである。この奇縁により白秋が創刊した「朱鷺」に三上が詩を投稿する。謹慎の三年間、読書のかたわら「早稲田文学」その他に小編訳文を載する。早大は卒業試験を受けず中退する。

大正三年、父の病臥により家督を相続すると、独断で全財産を売却し上京、赤坂氷川町に一戸を構え、三上はふたたび放蕩生活に入る。四年、朝鮮の独立運動を題材とした社会主義的小説「春光のもとに」を自費出版、生田長江に認められたが発禁となる。一家は大塚坂下町に移転し、三上は牛込赤坂下で閑秀才家長谷川時雨と同棲し、いちじ毎夕新聞に勤務する。このころから「講談雑誌」主幹の生田蝶介に知られ、宇野浩二に忠告されるが同誌に水上瀧花の筆名で翻案時代小説を書く。五年、最初の長編現代小説「悪魔の恋」を「講談雑誌」に連載する。



改題）を「サンデー毎日」に発表。十五年六月、「黒髪」を刊行する。昭和三年、夫人長谷川時雨の主宰する「女人芸術」に資金を投じ、八年にはサイレン社を創立、多数の単行本を刊行する。三上がみずから出版社を経営したのは、理想の出版を目ざしたものである。大正末年ごろからの三上の名声は高く、大衆雑誌、婦人雑誌、週刊誌、新聞、総合雑誌や文芸雑誌にも執筆、人口に膾炙した長編時代小説「雪之丞変化」は、昭和九年から十年かけて「朝日新聞」に連載される。十年六月、随筆集「わが漂泊」を刊行。十一年七月、脳塞栓で倒れてからは、ときに病勢に小康を得て、わずかの作品を書いたが昔日の生彩を失い、十八年、郷里に疎開し、十九年二月七日、脳塞栓のため、疎開先の幸松村（現・春日部市）で昇天する。行年五十三歳。墓は杉戸町木野川の共同墓地の一角にある。「三上家歴世之墓碑」とあつて向って右側面に「三上於菟吉夫人之命」「長谷川康子刀自之命」（夫人長谷川時雨・昭和十六年八月二十二日昇天）と刻まれている。畑の中の静かな落着いた墓地に眠っているのがある。

（日本ペンクラブ会員 榎本了）

埼玉県立図書館だより 第26号

昭和60年12月15日 (4)

埼玉県立図書館だより 第26号

昭和60年12月15日

(5) 埼玉県立図書館だより 第26号

東西南北

12月13日

県立浦和図書館

●記録映画会

日時 1月16日(木) 14時
内容 「岸沢銈介の世界」

●和菓子

●志野

日時 1月25日(土) 14時
内容 「ニホンザル母の愛ーモズの子育て日記」

●北極の大自然

●新着フィルム映画会

日時 2月6日(木) 14時
内容 「ガンに克つーその解明と予防」

●記録映画会

●桂離宮

日時 2月15日(土) 14時
内容 「日光東照宮」

日時 2月20日(木) 14時
内容 「炎の秘密をさぐる」

日時 2月20日(木) 14時
内容 「炎の秘密をさぐる」

県立熊谷図書館

●名作映画鑑賞会

日時 2月1日(土) 10時・14時
内容 「忍ぶ川」

●子供ビデオ映画会

日時 12月24日(火) 13時
内容 「ダンボ」

日時 12月25日(水) 13時
内容 「雪の女王」

日時 12月26日(木) 13時
内容 「ドリトル先生不思議な旅」

日時 1月7日(火) 10時・14時
内容 「なまはげだぞう」(鹿鈴)

日時 12月21日(土) 14時
内容 「矢沢永吉ヒストリー」

日時 1月18日(土) 14時
内容 「オリビア・イン・コンサート」

日時 2月22日(土) 14時
内容 「松山千春・ステージ」

日時 3月22日(土) 14時
内容 「アゲイン・M・J・Q」

日時 3月22日(土) 14時
内容 「アゲイン・M・J・Q」

日時 3月22日(土) 14時
内容 「アゲイン・M・J・Q」

県立久喜図書館

●クリスマス子ども映画会

日時 12月25日(水) 10時・13時半
内容 「ミッキーマウスとゆかいな仲間たち」(海が呼ぶ少年)

日時 12月26日(木) 10時・13時半
内容 「泣いた赤おに」(私たちのこもりうた「くずの葉ぎつね」)

日時 1月7日(火) 10時半・13時半
内容 「15少年漂流記」(アニメーション)

日時 12月21日(土) 10時・13時半
内容 「砂の器」

日時 1月25日(土) 10時・13時半
内容 「それぞれの旅立ち」

日時 2月15日(土) 10時・13時半
内容 「高原に列車が走った」

日時 1月16日(木) 13時半
内容 「コンピュータとわたしたち」

日時 1月16日(木) 13時半
内容 「コンピュータとわたしたち」

日時 1月16日(木) 13時半
内容 「コンピュータとわたしたち」

日時 1月16日(木) 13時半
内容 「コンピュータとわたしたち」

●ビデオ・コンサート

日時 1月9日(木) 13時半
内容 「オリビア・イン・コンサート」

日時 1月11日(土) 13時半
内容 「デヴィッド・ボウイ」

日時 2月4日(火) 13時半
内容 「リマス・ムーントライト・コンサート一九八三」(お正月ビデオ・コンサート)

日時 1月23日(木) 13時半
内容 「エルビス・オン・ステージ」

日時 2月4日(火) 13時半
内容 「レモンの季節」(松田聖子「コンパートメント」)

日時 2月18日(土) 13時半
内容 「アライムス・交響曲第一番」

日時 2月18日(土) 13時半
内容 「アライムス・交響曲第一番」

日時 2月18日(土) 13時半
内容 「アライムス・交響曲第一番」

日時 2月18日(土) 13時半
内容 「アライムス・交響曲第一番」

全ての催し物は無料です。会場の記入がない場合は、いずれも主催館(印)が会場。詳細は県立各館まで。

私たちの環境 埼玉環境部編 昭58
埼玉郷土辞典 自然編 埼玉新聞社 出版部編 昭54
埼玉県環境特性調査報告書 埼玉県環境部編 昭59
綾瀬川の自然 綾瀬川自然調査研究

近年、激しい都市化の中で私たちの身近にあった雑木林、耕地等は、その姿を次々と変えています。こうした失われつつある自然環境への危機感から次第に「緑」に代表される自然への関心が高まり、各地域で自然保護への動きもみられるようです。今回は私たちがとりまく自然とはどのような姿なのか、どのような状況にあるのかを資料のうちから探り、理解と認識を深めていただけたらという資料展「さいたまの自然」の展示資料からごく一部を挙げてみました。



本のひろば
さいたまの自然

- 会 昭60
浦和市史調査報告書 第17集 自然編 浦和市史編さん室 昭60
狭山丘陵博物館誌 肥田孝司著 武蔵野郷土史刊行会 昭57
皆野町誌 自然編1〜3 皆野町誌編集委員会編 皆野町 昭57
平林寺の自然と文化 平林寺の自然と文化を守る会編 皆美社 昭53
河岸の生物調査報告書 埼玉大学教育学部生物学教室 埼玉公害センター編 昭48〜55
久喜市の動植物I 久喜市史編さん室 昭60
寄居町の自然 植物編・動物編 寄居町史編さん室編 寄居町教育委員会 昭56
埼玉県身近な緑の現況調査報告書 (概要版) 埼玉環境部編 埼玉県昭59
埼玉県の森林と林業 埼玉県農林部林務課編 昭50〜57
自然環境保全基礎調査植生調査報告書 第2回(埼玉県) 埼玉県編 昭55
埼玉県植物誌(正)・続編 埼玉県教育委員会編 昭47
上尾の植物誌 堀切史郎編 上尾市理科研究部 昭54



- 浦和の野生薬草 浦和女子薬剤師会編 昭59
大井町の植物 大井町史編さん委員会編 大井町教育委員会 昭56
川口市内の野生植物 川口植物の会 昭58
秩父路の野草 夏秋、冬春編 鶴田知世文 井上光三郎写真 埼玉新聞社 昭58〜59
鶴ヶ島の植生 宮脇昭ほか著 鶴ヶ島町史編さん室編 昭56
都幾川村の植物 中沢利雄、小川伸幸編 都幾川村の植物刊行会 昭57
戸田市の植物 増修版 戸田市立教育研究所編 戸田市教育委員会 昭57
飯能の自然 植物 飯能市 昭52

- 武甲山の植物 武甲山植物群保護対策推進協議会編 昭53
与野植物誌 企画部市史編さん室編 与野市 昭58
両神山の植物 岩田豊太郎著 昭52
埼玉県動物誌 埼玉県動物誌編集委員会編著 埼玉県教育委員会 昭53
荒川本流河川敷の陸生動物目録 埼玉県県民部史編さん室編 昭60
自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書 (哺乳類) (淡水魚類) (両生類・は虫類) (昆虫類) 第2回 埼玉県 昭54〜55
へほ乳類・鳥類
埼玉県内の大型ほ乳動物 埼玉環境部自然保護課鳥獣保護係編 埼玉県 昭51
さいたま動物誌 鈴木欣司著 昭56
埼玉四季の鳥 日本野鳥の会埼玉県支部編 埼玉新聞社 昭58
埼玉県バードサンクチュアリ基礎調査報告書 日本野鳥の会埼玉県支部編 (埼玉県) 昭59
雑木林の野鳥 山口正信著 有峰書店新社 昭56
野田の鷺山 小林昭光著 朝日新聞社 昭55
狭山丘陵の鳥 荻野豊著 さきたま出版会 昭55

第七回

「本を読む県民のつどい」

十二の読書グループ、
四つの文庫が表彰される

読書週間の最後を飾る第七回「本を読む県民のつどい」が、十一月八日、熊谷市立文化会館を会場に五百名の参加者を得て盛大に開催されました。

「つどい」は、主催者を代表して佐藤教育次長の挨拶にはじまり、来賓祝辞のあと読書グループ及び文庫十六団体が県教育委員会から表彰され、あわせて社団法人読書推進運動協会からの表彰伝達も行われました。

続いて受賞した桶川市のおおぞら文庫代表の原田恵美子さんが、子どもに直接本を選んでもらおうと文庫活動を推進している状況について発表され、さらに、地元熊谷からは、市読書協会長の松本伸子さんが具体例をまじえてその活動状況について報告されました。

休憩のち、シナリオライターの倉本聡氏が「北の国で考える」と題し記念講演を行いました。四十を過ぎた倉本氏が北海道富良野の原生林に住むようになった心境から話され、放送作家らしく、テレビと視聴者と



熊谷市立文化会館における受賞風景

かわりにについてふれ、その両者とともに生活の真実をきびしくみつめる目をもたないと、作品の内容もよくならないことを強調されました。

読書グループ

- ふきのとう読書会(川口市) 文庫
読書会(北本市) 江南読書クラブ
(江南町) かたつむり会(神川村)
秩父婦人読書会(秩父市) 横瀬町
読書サークル(横瀬町) 飯能婦人
会読書グループ(飯能市) 野火の
会(富士見市) 古文を読む会(富士見市) 唐子小PTA読書部(東松山市) 蘭(越谷市) 曾根の会(越谷市) 北原読書会(本庄市) 読書推進運動協議会表彰
●文庫
おおぞら文庫(桶川市) ゆうかり
文庫(北本市) のらぎ文庫(幸手町) 柿の実文庫(松伏町)

読書グループ
の紹介

青木文庫のこと

飯能市

十四・五年前、近所に子育て最中のお母さんたちがいっぱいいました。その若い仲間と一緒に、身近に、子供に与える本が欲しい」と始めたのが青木文庫で、青木とは地名です。しかし、当時も今も親しみをこめて「縁側文庫」や「年中文庫」と呼ばれています。



青木文庫

リーなどから寄贈された本や市立図書館から団体貸出を受けた本など合わせて蔵書も約二千冊に増えました。文庫十四年の歴史は仲間同士の子育てと重なり、さまざまな想い出とつながります。本を買うために不用になった衣類や手作りパンツのミニバザー、灯油の共同購入の利益金、親子盆踊りの花代等があてられてきました。

家人が留守でもいつも開けっ放しの玄関、置かれたノットに記入すれば貸出しOKの文庫には、色の変ってしまつたノートに何千冊もの本、何百人もの子供の名前が書き込まれています。

近頃、近所に子供の姿が少なくなり、また今春、近くに公民館が開館して図書館分館として機能を果たすようになったこともあって文庫に来る子供も減りました。文庫の役割もそろそろ果たし終えたのかなと思うこともありますが、おばさん、本、かしてくださーい」という声を聞くと、まだまだもう少し続けてみようと思うのです。



〈昆虫〉

雑木の小さな仲間たち 牧林功著
埼玉新聞社 昭60
所沢市三ヶ島の昆虫類調査報告 埼玉
玉昆虫談話会編 昭59
埼玉県トンボ観察記 新井裕著
昭57
埼玉蝶の世界 埼玉昆虫談話会編
埼玉新聞社 昭59
気象・地学・陸水学
埼玉県気象年報 熊谷測候所編 大
5 昭56
みんなの地学 地学団体研究会埼玉
支部編 埼玉新聞社 昭55
自然環境保全基礎調査湖沼調査報告

書、同河川調査報告書 第2回(埼玉
玉) 埼玉県編 昭55
陸砂利採取に伴う地下水調査の概要
埼玉県環境部環境管理課編 昭55
自然保護
緑のトラストをめざして 埼玉県環
境部自然保護課編 ぎょうせい
昭58
見沼田圃保全方策定に関する調査
埼玉県企画財政部 昭58
新座の自然とくらしを守って 新座
の自然とくらしを守る市民の会
昭60
緑のまちと市民たち 天祝山付近の
自然を守る会編著 三二書房

昭55
埼玉県バードサンクチュアリ基本構
想に関する報告書 埼玉県バードサ
ンクチュアリ検討会 昭58
「川をきれいにする運動」のあゆみ
志木川をきれいにする運動推進協
議会 昭56

編集後記

むさしの読書会岡部会長から、玉稿
「或る対話」をいただきました。
図書館を生徒学習の場として、活用
して頂き、大変有り難いことです。
高齢化社会へと進む昨今、実年パワ
ーの学習意欲には、心から敬意を表し
ます。
さて、年も押し詰まりましたが、こ
の一年をじっくりと振り返り替えてみ
て、いかがだったでしょうか。
また、この時期は、何かと忙しい
時であります。交通事故や健康等には
十分気を付けて、皆様も良い新年を迎
えることを、心から祈念いたします。



おたすねくたさい

問 鏡もちについて知りたいの
ですが。
答 もち米をもちにして食べる
ようになったのは平安朝以前、
奈良朝のころといわれています
が、もち米の食用はもっと古い
ようです。奈良朝では、もち
もっぱら祝い事、祭り事用とし
て用いられていました。正月に
飾られる鏡もちもそのころから
すでにあったようですが、鏡も
ちを正月に食べる習慣は、平安
時代以降のことだったようです。

有名な紫式部の「源氏物語」の
初音の巻に、「歯固めの祝ひし
て、餅鏡をさへ取りよせ、千歳
の陰にしろき、年のうちの祝ひ
ごとどもして……」と書かれて
います。ここである歯固めの歯
というのとは人の年齢のことであ
まり延命長寿を願う意味で鏡も
ちが使われたのでしょうか。昔
はもち丸い形のものとされて
いて、それは霊魂は丸い形のも
のに宿ると信じられていたから
です。ご神体の石などにも丸い



ものが多くあるのと同じです。
また鏡は非常に神聖視されてい
ました。多くの神祠の神体が宝
鏡であり、三種の神器の一つも
鏡です。ですから正月に鏡もち
を用いたのは、金属製の鏡があ

まりにも神聖なもので、鏡
もちで代用したのがはじまりの
ようです。鏡開きに割って食べ
るのには、神供のお下がりをい
ただく意味があり、これによつ
て神と同じ釜の飯を食べたとい
う連帯意識が生じるわけです。

参考文献
「日本年中行事辞典」角川書店
「たべもの語源辞典」東京堂
「おもてなし料理・正月料理」講
談社 他